

特定非営利活動法人 防災千葉

千葉市中央区本町 1-6-24 (渡辺コーポ 102 号)

E-mail bosai@bosai-tiba.jp

Homepage <http://www.bosai-tiba.jp>

Fax 043-301-3820

■ <理事長のあいさつ>



増岡 洋一 理事長

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は年初より世界そして日本列島を席卷した新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、本法人の活動も規模あるいは時期的な制約を受けましたが、令和2年度業務である土砂災害危険箇所点検、歩くパトロール、防災訓練、出前授業そして急傾斜地崩壊危険区域・防止施設点検（実施中）を予定通り遂行できました。これも偏に会員皆様方のご尽力と千葉県をはじめ防災行政に携わる多くの方々のご支援の賜物と、ここに改めて感謝申し上げます。

また、本来であれば新春1月に例年開催しておりました防災関係建設技術研修会については、コロナ「第3波」がいまだ続く中、共催する関係機関と開催に向け協議いたしましたが、感染拡大防止の観点から中止としましたことをご了承下さい。

昨年を振り返りますと、台風の日本列島上陸は12年前の2008年以来という「上陸ゼロ」の年であったものの、令和2年7月豪雨で

は梅雨前線の長期間停滞による豪雨により、熊本県では多くの命が球磨川の氾濫により失われました。一昨年は令和元年房総半島台風、東日本台風そして令和元年10月25日の大雨によって千葉県でも甚大な被害が生じたところですが、自然災害のさらなる頻発化、激甚化がまさに現実のものとなってきました。昨年の技術研修会の講演会においても国交省河川計画課の奥中課長補佐（当時）が「気候変動を踏まえた治水対策」を進める上で、今後、事前防災の取り組みとして「ハード・ソフト一体となってあらゆる関係者によって流域全体で協働して行う流域治水を推進していく必要がある。」と強調されておりました。そして昨年6月には、土砂災害や浸水被害など災害リスクの高い区域からより低い区域に居住や都市機能を誘導するなど都市の防災・減災につながる「改正都市再生特措法」等の関連法が成立したところです。また、お隣の東京都では「災害に強い首都形成」に向けて、官民が連携した治水対策に街づくり施策を組み合わせた「高台町づくり」を進めています。今後、防災街づくりの先例として全国的に展開されていくことが期待されます。

今年の3月11日には東日本大震災の発生から丸10年を迎えます。この大震災による津波で千葉県では18市町村が浸水被害を受け、14名の尊い命が失われました。平成25年度からスタートした、語り継ぐ災害「地震津波災害」の出前授業も今年で9年目に入ります。昨年の出前授業は、匝瑳市立八日市場第一中学校において感染症予防に十分配慮して、1学年の防災学習の一環として実施しました。数日後、学年主任さんから代表生徒さんの感想文が送られてきましたので、本会報にいくつかの感想文を掲載させていただきました。

本年もNPO防災千葉では、千葉県防災行政と連携・協働して地域を守る各種事業に取り組んでまいりますので、皆様方の一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

NPO防災千葉 理事長 増岡洋一



干支の挿絵 NPO会員 御園生 孝さん 画

■ <語り継ぐ災害「地震津波災害」九十九里外房地域>

九十九里外房地域は過去に大きな地震津波災害を受けてきた地域です。

そこでこれまでの地震津波災害、東日本大震災で津波にあわれた方の体験談、そして強い地震の揺れがあったらどのように対応するか、について子供たちにわかりやすく説明し伝えることにより防災対策への関心を育み手助けできるよう、主に小学校高学年生を対象に出前授業を実施しています。



ご自身が被災された時の状況をお話しされる
宮本さん（旭市飯岡在住）と当日の講師



令和2年度は、新型コロナウイルスによる感染症を予防する観点から、当初予定していた小学校3校での開催を延期する中、匝瑳市立八日市場第一中学校で、先生方と事前調整を行い感染防止対策に配慮しながら、10月8日に出前授業『語り継ぐ災害「地震津波災害」』を実施いたしました。

参加者は1年生（91名）、教員（8名）、市役所職員、当NPO講師等（10名）の109名でした

防災学習を終えて

出前授業の実施後、参加された生徒さんが書いた表題の感想文が、学校から送付されました。

掲載した直筆の文以外にも、たくさんの感想をいただきました。以下にその一部を紹介いたします。

・ 防災学習を教えてください本当にありがとうございました。私には東日本大震災の時の記おくが ざんねんながらほとんどなく、ゆいいつあるのは大泣きしながら親の帰りを待っていたことです。でも、この特別な授業があったおかげで、「こんなことがあったんだ」と改めて感じる事ができました。

僕は、防災学習の話を聞いて津波の怖さを、あらためて、知ることができました。災害発生時の合言葉の「自分の命は自分で守る」をしっかりと頭に入れ、落ち着いて考えて行動したいです。防災学習を通して命の大切さ、行動の仕方などを教えてください、ありがとうございました。とても大切な授業でした。

私が防災学習で学んだことは、地震がどのような被害をもたらすのか、津波がどのような被害をもたらすのか、など、いろいろなことを、くわしく知れたことです。また、実際に災害を体験した方からの、お話では、災害の怖さを感じ、災害がおきた時の、持ち物、行動の仕方を改めて考えさせられました。この授業で学んだことを、これからの生活に生かしていきたいと思います。

・ 防災学習の授業を受けて思ったことは、避難場所を確認しておくことや災害が起こった時に必要な物を備えておくことです。津波にながされた方の話を聞いて、どんなに苦しい じょうきょうでも最後まであきらめないでがんばろうと思いました。

・ まずNPOが何なのかと思ったのですが、色々な活動をしていることがわかり、もやもやしていたのが かいしょうされました。防災学習を終えてあらためて思ったのは、備えが大切なのと、家族との連絡手段などをかくにんしておくのがものすごく大事だというのが伝わりました。

■ ＜防災訓練への参加＞

令和2年9月1日に実施された千葉県県土整備部震災対応訓練に当NPOからすべての土木事務所管内で合わせて60名が参加しました。訓練は各事務所管内の管理施設（河川、道路、橋梁、公園、急傾斜地崩壊危険区域等）のパトロール、被害状況の報告などの情報伝達訓練を中心に行い、一部の事務所では道路の通行止めや放置車両の移動などの訓練も併せて行いました。



放置車両移動訓練（香取土木所管内）



（主）船橋我孫子線 手賀大橋 通行止め処置（柏土木所管内）



（主）成田安食バイパス 上福田橋
歩道通行止め措置（成田土木所管内）



国道126号線 干潟大橋 安全点検（海匠土木所管内）



放置車両移動訓練（柏土木所管内）

■ ＜亀山・片倉ダム管理事務所 所内研修の実施＞

「亀山ダム建設等に関わられた当時の担当職員（県OB）の方を講師に招いて研修会を開催し、今後のダム管理や河川改修に配慮すべき事項について、知識の習得を図りたい」との要請に基づき、NPO防災千葉に所属する関係者を派遣し、研修会を下記の通り行いました。

日時：令和2年11月26日(木)

13:30～15:30

場所：亀山・片倉ダム管理事務所 会議室

参加者：所長、職員、県土整備部河川整備課職員
NPO防災千葉3名（田中、宮寄、吉田）

概要：

- ・ 亀山ダム建設計画について・・・田中茂治氏
- ・ 小櫃川3ダム建設事業について・・・宮寄義昭氏
- ・ 意見交換



※ 研修会は新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら実施しました

■ ＜土砂災害危険箇所点検への参加＞

例年、土砂災害防止月間（６月）の事業として行われる土砂災害危険箇所点検（通称 かけ点検）ですが、今年度は新型コロナウイルス感染予防対策等の影響で事務所毎に分散開催（７月～１１月）されました。その詳細は以下の表のとおりです。

近年の実施状況（点検箇所数）
 平成２７年度・・・９１６箇所
 平成２８年度・・・８９２箇所
 平成２９年度・・・８７６箇所
 平成３０年度・・・８３２箇所
 令和 元年度・・・８４１箇所

令和２年度（実施期間 令和２年７月２９日～１１月２６日）

土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数	土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数
千葉土木事務所	4	49	4	海匠土木事務所	2	25	4
葛南土木事務所	3	60	4	山武土木事務所	2	26	7
東葛飾土木事務所	5	51	5	長生土木事務所	1	85	6
柏土木事務所	2	23	4	夷隅土木事務所	4	47	4
印旛土木事務所	6	136	13	安房土木事務所	4	121	8
成田土木事務所	3	46	6	君津土木事務所	5	74	14
香取土木事務所	1	40	5	市原土木事務所	1	68	8
銚子土木事務所	2	20	4	計		871	95

■ ＜歩くパトロールへの参加＞

「道路を守る月間」（８月）の事業として、毎年土木事務所が行っている「あるくパトロール」に、今年度は１３土木事務所管内で参加しました。

NPO防災千葉からの参加は新型コロナウイルス感染予防対策等の影響で規模を縮小した土木事務所などがあり、例年よりやや少ない延４０名でした。

近年の実施状況（参加延人員）

平成２７年度・・・５３名（１３土木事務所）
 平成２８年度・・・５８名（１３土木事務所）
 平成２９年度・・・６３名（１４土木事務所）
 平成３０年度・・・５２名（１４土木事務所）
 令和 元年度・・・５４名（１４土木事務所）

■ ＜急傾斜地崩壊危険区域・防止施設点検の実施＞

平成２８年度から急傾斜地崩壊危険区域・防止施設点検を受託しており、今年度は５土木事務所８８箇所で開催中です。

近年の実施状況（点検箇所数）

平成２８年度・・・１４３箇所（６土木事務所）
 平成２９年度・・・１０７箇所（６土木事務所）
 平成３０年度・・・９４箇所（６土木事務所）
 令和 元年度・・・９２箇所（５土木事務所）

■ ＜防災関係建設技術研修会について＞

令和３年１月に開催する予定でしたが、関係機関との協議の結果、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、今年度は中止することにいたしました。